

# しらかば

## 掃除がもたらすもの

富良野市立山部小学校長 桑原久美

雪が授業中舞い降りてきたり、朝起きると地面が真っ白になっていたり、確実に冬は近くにやってきました。帽子やマフラー、手袋や冬用の靴など、暖かな装いで登校する子どもが増えてきました。校舎内は暖房が入っているのでTシャツ姿の元気な子どもたちもいますが、寒くて上着が脱げない子どももいます。気温にあった服装ができるように自分で考える力をつける必要があります。

さて、本校の合い言葉「あそべ山小」の「㊦うじ」について書かせていただきます。給食の時間が終わると、全校で掃除が始まります。様子を見てみると、働き者ばかりです。どの子どもも、進んで掃除をしています。いつもは元気に話している子どもたちも、無言で掃除に集中していることが分かります。一緒に掃除をしたときに、「ここを掃いてくれるかな。」「ここもお願い。」と掃除の箇所をいくつか伝え、その後は汚れている箇所を自ら見つけ働いていました。低学年では重たくて運ぶことが難しい机ですが、二人で協力して持ち上げて運ぶ様子がありました。ごみを引きずらない、床を傷つけない観点でとても大事なことです。素晴らしいあと、ただただ感動しました。

また、本校の特徴の一つに縦割り班活動があります。1～6年生までをおおよそ均等に配置した6つの班に分かれ、一班5～6人で掃除を行っています。縦割り班の良さは、低学年であれば掃除の仕方を高学年に教えてもらえることです。箒や雑巾、ちり取りなどの道具の使い方や、掃除の手順など、直接教えてもらえますし、見ているだけでもどのように行動すべきか学べます。高学年は、低学年の面倒を見て自分自身が手本となることで、高学年としての自覚が出てきます。全体を掌握する力や的確な指示、そして優しさや思いやりの心が育っているのが分かります。

縦割り班では、毎月班会議を開いています。月目標の反省と、翌月の目標設定を行います。掃除は使用箇所をきれいにすることが目的ではありますが、「ごみを残さず掃除をする」「時間内に終わらせる」など、具体的な目標をもつことで意欲的に取り組んでいます。その会議では、特に頑張った人を「月間ぴかぴか大賞」として互選しています。賞に選ばれた人の顔写真とともに選出理由が書かれたポスターが、各教室に掲示されます。これも、掃除を頑張るモチベーションの一つになっています。



この「掃除」を通して育つことはたくさんあります。自分で考え行動する自主性、自分の役割を自覚し誠実にやり抜く責任感、どのように掃除をしたらより効率的にもっときれいにできるか考える創意工夫、班員同士の協力や思いやり、進んで仕事をする勤労の精神、みんなが使うものを大切に公共心。このように身に付いた力を、掃除の時間以外でも発揮できることが理想です。教室での机上やロッカーの整理、消しゴムのかすなど授業後の清掃、廊下のゴミに気付き拾う行為、そして家庭や地域をきれいで整った環境づくりに進んで取り組む態度など、活用できるようにしていくことが今後の課題です。

